



# 「繰り返し」のあるお話を紹介しよう

「だって だっての おばあさん」(二年下)

筑波大学附属小学校 教諭

青山由紀

## はじめに

低学年向けの文学作品には、言葉や場面を繰り返すものが多い。教科書教材を例に挙げると、「おむすびころりん」「おおきなかぶ」「くじらぐも」「ずうつと、ずつと、大すきだよ」など、一年の教材だけでも多くのものが該当する。「繰り返し」は文章にリズムを生むのはもちろんのこと、読者に話の展開を予想させたり、最後だけ異なるパターンにして、結末を際立たせたりするなどの効果がある。

「繰り返し」は、一年生にも見つけやすい技法である。一年のまとめとなるこの時期に、「繰り返し」に着目する「読み方」を教え、これからの国語学習に生かしてもらいたいと考えた。

本単元は、「だって だっての おばあさん」(二年下)の終末に、「繰り返し」のある

るお話を紹介しよう」という言語活動を位置づけた。「繰り返し」に着目した「読み方」を身につけるとともに、読書活動へと広げることがねらいとしている。

## 指導計画(全八時間)

一時	学習の見通しをもつ ・「題名」から内容を予想する。 ・教材文の範読を聞いた後、「繰り返し」のある作品を思い出す。
二時	登場人物を確かめる
三時	好きなところを出し合う
四・五時	「繰り返し」の言葉に着目して、おばあさんの変化に気づく ・「繰り返し」のある作品を出し合う。 ・教師がモデル文を提示する。
六時	紹介する本を決める
七・八時	自分が紹介したい本の紹介カードを作る

※紹介カードの発表は、朝の時間や、国語の時間の中で帯単元として扱う。

と投げかけ、「繰り返し」のある話を思い出させる場を作った。

## 四・五時

前時に、教材の中の好きなところを出し合った際、おばあさんの「だって」に着目した子どもが複数いた。そこで、次の三つの会話文に焦点を絞り、読み深めていった。

P 106 「だって、わたしは九十八だもの。九十八のおばあさんがさかなつり

をしたら、にあわないわ。」  
P 115 「だって、わたしは五さいだもの。あら、そうね。五さいだから、さかなつりにいくわ。」

P 119 「あら、わたし、なんて、さかなつりがじょうずなんだろう。五さいって、なんだかさかなみたい。」  
右のように、「だって」と「あら」が繰り返されているが、おばあさんの話す内容には変化が見られる。どのように変わったのか、意見を出し合った。

・「さかなつりは、にあわない」から「さかなつりにいく」に変わった。そして、さかなつりが上手になった。  
・「だって」ばかり言っていたのが、「あら

の繰り返しに変わった。

長い教材であるが、「繰り返し」の会話文に焦点化して考えることで、中心人物の変容に迫ることができる。また、題名の「だって だって」の意味に着目した意見も出た。「初めの『だって』は『行かない』の意味の『だって』で、二度目の『だって』は、『行く』の意味の『だって』だよ」というように、おばあさんの変化と題名を結び付ける、深い読みも見られた。

## 六時

一〜五時で学んだ「繰り返し」に着目する読み方を活用するために、「繰り返し」のあるお話を紹介するという言語活動を設定した。これまでに読んだ本の中から、「繰り返し」のある作品を選び、友達に紹介するという活動である。読書記録を振り返ったり、教科書一年下巻P41〜45の「むかしばなしが いっぱい」を見たりすると、作品探しのヒントになる。特に昔話は、「繰り返し」の典型なので、読書経験の少ない子どもでも探しやすい。

\* \* \*

紹介活動は、朝の時間や国語の時間の中で帯単元として扱った。授業の中で全員がまとめて発表するよりも、毎日二〜三人ずつ

## 指導の実際

### 一時

教材を読む前に、題名から、「だって だっての おばあさん」の内容を予想させた。子どもたちはこれまで学んできたことに照らして、次のような発言をした。

・「だって」をたくさん言っておばあさんが出てくるのかな。  
・わがままで文句の多いおばあさんが出てくるんだ。  
・理由の「だって」かもしれないよ。

「だって」と「おばあさん」にしっかりと着目させたところで、教師が教材文を範読する。子どもたちは、自分たちの予想が合っているのかどうか気になり、注意深く範読を聞いた。それから、「今までも、こういう『繰り返し』のあるお話を読んだことがあるよね。どんなものがあつたかな」など

つ発表するほうが、聞き手にとっては毎回新鮮である。また、本を探す期間を十分確保できるので、紹介者も聞き手も読書活動に「つなげやすい」。

【児童の紹介カード】

だいな	すいかのたね
出てきた人	ばばあちゃん、こねこ、こいぬ、うさぎ、きつね
あらすじ	ある日、ばばあちゃんがすいかのたねをうえました。(以下、略)
くりかえし	ばめん：がっかりして、またもとのようにうめといたんだ。 かいわ：「くろいたねだ」
おすすめのことば	すいかのたねがおこっているところがおもしろかった。

## おわりに

「繰り返し」を伴う作品には、次学年以降もたびたび出会うことになる。「繰り返し」に着目する読み方は、詩の理解や創作活動にも活用できる。また、説明文を読む際には、対比的な説明のしかた、事例の繰り返しなど、述べ方の工夫の気づきにもつながる。本単元の学びを生かして、これからの国語学習と読書生活をさらに豊かなものにしてもらいたい。(談)